

平成29年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

第6学年

教科	指導上の成果と課題の分析→	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は90%と高かった。日直のスピーチの機会を昨年度から繰り返してきた事で、各クラスとも、児童の伝える力や表現力の向上が見られる。【話すこと・聞くこと】 ・昨年度末の達成率は93%と高かった。問いに対して当てはまる文章を正確に書き抜く事が苦手な児童が多く、その点の重点的な指導が今後必要である。【読むこと】 ・昨年度末の達成率は84%であった。定期的に小テストを行い、まとめの50問テストは、満点を合格として繰り返し再テストを行ってきた。そのことが、全体の力の向上につながったと考える。【言語事項】 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直のスピーチの時間継続して行い、さらに児童の話す力が向上するよう、指導・助言を行っていく。授業では、お互いの話し方・伝え方の良い点や課題について伝え合う場を設ける。一方的に話すのではなく、相手意識を持った伝え合いができるようにさせる。 ・宿題等で、「読むこと」を中心に扱った補充プリントに取り組ませる。問いに対して正確に答えられるよう、文章の書きぬき方などについて、個別の指導も行う。また授業では、引き続き文章を要約する活動を取り入れ、目的に応じて文章内容の要旨を捉えられるようにさせる。 ・引き続き、漢字の小テストや50問テストを使った反復学習を行う。漢字の書き取りが不得手な児童には、まとめのテスト前後で個別の指導を行うなど、補充学習の場を設ける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は92%と高かった。出来事が起きた順序を問われる問題や、理由を記述する問題などを不得手とする児童が多く見られる。【思考・判断・表現】 ・昨年度末の達成率は94%と高かった。年表や様々な資料から、必要なキーワードを見つけ出す力に向上が見られた。【技能・能力・表現】 ・昨年度末の達成率は92%と高かった。歴史に関する関心はとても高いが、人物名などの固有名詞がうる覚えの児童が多く、さらなる習熟が必要である。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、問題解決学習を積極的に取り入れる。提示された資料から、時代背景を捉えたり、ある出来事が起きた理由を考えたりさせる。資料から得た根拠をもとに、自分の考えを構成し、表現する術を身に付けさせる。 ・資料提示に電子黒板等ICT機器を活用する。教科書に載せられた資料だけでなく、パワーポイント等も使う。必要に応じて独自に用意した資料も効果的に使用し、資料活用のちからを高めていく。 ・人物名・建物名・出来事名などを問う問題を載せた補充プリントを、繰り返し宿題に出し、学習内容の定着を図る。選択形式ではなく、記述式にすることで、正確に記憶できるようにさせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は79%と低かった。文章を読み取る力にまだ不安のある児童が見られる。また、面積や体積を求める問題でも、自分の考えを正確に式に表せない児童が多い。【数学的な考え方】 ・昨年度末の達成率は85%であった。分数の割り算については達成率が低く、多くの課題が見られる。特に「約分」を忘れる児童が多く、その点に課題が見られた。【技能】 ・昨年度末の達成率は91%と高かった。分数のたし算・引き算についての理解は全体的に高い水準にあるが、分数のわり算の学習内容の習熟に課題がある。特に文章に書かれている情報を、数直線に表す事を苦手とする児童が多い。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を多く扱ったプリントを宿題として出す。授業では、立式したものを説明させる活動を多く取り入れ、式の意味を深く考える習慣が身に着くようにする。 ・「約分」等、達成率の低い分野に特化した問題に多く取り組ませる。レベルアップタイムの時間を活用する。その際には、東京ベーシックドリルを活用し、反復練習による基礎・基本の徹底を図る。 ・文章の内容が視覚的に捉えやすくなるように、電子黒板等ICT機器を活用する。数直線の書き方等についても、デジタル教科書などを使い、順序立てて分かり易く説明する。

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は88%であった。「何を調べる為の実験なのか」や「どうしてそのような条件にするのか」等、理由を問われる問題に対して、正答できる児童は少ない。【思考・表現】 ・昨年度末の達成率は87%であった。ほとんどの児童に条件を制御しながら実験・観察を行う力が身に付いてきているが、実験の意味や方法について、理解が不十分な児童が一部見られる。【技能】 ・昨年度末の達成率は92%と高かった。全体的に知識がしっかり定着しているが、「体のつくりとはたらき」等、生命分野における知識の定着に不安のある児童が見られた。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験方法を立案させる際に、「何を調べるのか」「どのようにしたら調べられそうなのか」など、学級全体で共通の見通しをもたせる。実験の意味や意義についての理解が深まるよう、配慮する。 ・実験は2～3人の小グループで行うが、分担して実験を行うだけでなく、全員が同様の経験ができるように配慮する。限られた時間の中で円滑に作業が進められるよう予備実験を行い、実験の要点や安全面を確認し、器具等の用意を万全に行う。 ・人体に関する事など、実際に実験で確かめたり体験したりしにくい事象には、電子黒板等ICT機器を使う。視聴覚資料等も活用して理解を深めさせ、知識が定着するように促す。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への関心や意欲は、全体では高いが、個人差がみられ、運動領域によって運動に対する苦手意識や抵抗感をもつ児童も数人みられる。【関心・意欲・態度】 ・ペアやトリオ、グループでの教え合う活動に課題が見られた。また、運動の動きのポイントの理解が不十分な児童も見られた。【思考・判断】 ・運動の技能は、能力に個人差はあるものの、高めようとする意欲をもった態度で学習に取り組む児童の姿があった。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・場の設定やルールの工夫を通して、どの子も楽しく運動に取り組めるようにする。実態によっては、中学年での学習に立ち返り、既習事項をもう一度確認する時間を設定する。 ・主体的・協同的な学びを行うために、児童が運動の特性や動きのポイントを理解させる。そのために、教師が特性やポイントを理解し、資料の提示や学習カードの工夫、ICTの活用を引き続き行う。 ・自分や友達の動きを電子黒板等ICT機器の活用を通して、技能や態度面等の向上に引き続き努める。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科に興味・関心があり、意欲をもって学習に取り組んでいる児童が多いが、技能面の不安から、活動に消極的な児童も一部見られる。【関心・意欲・態度】 ・生活経験等の差により、技能面で個人差が多い。基本的な事項や技能を個々に合わせて丁寧に指導していく必要がある。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に基本的な技能習得のめあてをもたせ、個に応じた課題を提示したり励ましたりしながら、担任・講師が休み時間等を活用し補充指導を行う。 ・朝食作り等の宿題を出す事で、学習内容のさらなる定着を図るとともに、保護者に活動の様子を伝え、家庭の協力を得られるようにする。また、縫い方、切り方などの技能指導において、電子黒板等ICT機器を活用し、教師の手元を大きく映し出す等の工夫をする。